

## 「これからの高校づくりに関する指針」改定版（素案）【概要版】

項 目	基本的な考え方・主な取組																				
Ⅰ 指針の趣旨等	<p>1 趣旨 社会の劇的な変化や、生徒の興味・関心、進路希望等の多様化、中学校卒業生数の減少など高校を取り巻く環境の変化に対応し、未来を担う人材を育む教育機能の維持向上を図るため、高校づくりに当たっての基本的な考え方と具体的な施策を示すもの</p> <p>2 適用 令和 8 年度(2026年度)から適用 (実施可能な施策は、令和 5 年度 (2023年度) から実施)</p>																				
Ⅱ 地域とつながる高校づくり	<p>1 地域と密接に結び付いた取組の推進（地学協働の推進） ・コミュニティ・スクールの導入、コンソーシアムの整備</p> <p>2 将来を見据えた地域とともに高校づくりを考える仕組みの構築 ・将来的に圏域内の高校が担うべき役割や高校の魅力化、高校配置の在り方等について協議</p> <p>3 地域連携特例校の充実 ・地域連携協力校や他の特例校との連携による教育活動の充実 ・遠隔授業の配信機能の強化</p>																				
Ⅲ 活力と魅力のある高校づくり	<p>1 全日制課程</p> <table border="1" data-bbox="488 797 1406 1099"> <tr> <td>普通科</td> <td>・ICTの一層の活用 ・普通科新学科の設置</td> </tr> <tr> <td>専門学科</td> <td>・引き続き適切な設置</td> </tr> <tr> <td>総合学科</td> <td>・小規模校の教育活動の充実 ・地域の中学校等に対する情報発信の工夫・改善</td> </tr> <tr> <td>職業学科</td> <td>・産業界と高校が一体となった教育課程の推進</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中高一貫</td> <td>一体型 取組成果の発信</td> </tr> <tr> <td>連携型 地元中学校と連携した教育活動の継続</td> </tr> <tr> <td>併設型 必要に応じ設置の可能性の検討</td> </tr> <tr> <td>単位制</td> <td>・一定の学校規模の維持を検討</td> </tr> <tr> <td>アビィスクール</td> <td>・多様な学校選択幅のある通学区域での導入検討</td> </tr> </table> <p>2 定時制課程・通信制課程</p> <table border="1" data-bbox="488 1122 1406 1234"> <tr> <td>定時制</td> <td>・生徒の生活スタイル等に応じた学習機会の確保 ・ICTの活用などによる教育活動の充実</td> </tr> <tr> <td>通信制</td> <td>・ICTを基盤とした先端技術を効果的に活用した新しい学びの実現に向けて検討</td> </tr> </table>	普通科	・ICTの一層の活用 ・普通科新学科の設置	専門学科	・引き続き適切な設置	総合学科	・小規模校の教育活動の充実 ・地域の中学校等に対する情報発信の工夫・改善	職業学科	・産業界と高校が一体となった教育課程の推進	中高一貫	一体型 取組成果の発信	連携型 地元中学校と連携した教育活動の継続	併設型 必要に応じ設置の可能性の検討	単位制	・一定の学校規模の維持を検討	アビィスクール	・多様な学校選択幅のある通学区域での導入検討	定時制	・生徒の生活スタイル等に応じた学習機会の確保 ・ICTの活用などによる教育活動の充実	通信制	・ICTを基盤とした先端技術を効果的に活用した新しい学びの実現に向けて検討
普通科	・ICTの一層の活用 ・普通科新学科の設置																				
専門学科	・引き続き適切な設置																				
総合学科	・小規模校の教育活動の充実 ・地域の中学校等に対する情報発信の工夫・改善																				
職業学科	・産業界と高校が一体となった教育課程の推進																				
中高一貫	一体型 取組成果の発信																				
	連携型 地元中学校と連携した教育活動の継続																				
	併設型 必要に応じ設置の可能性の検討																				
単位制	・一定の学校規模の維持を検討																				
アビィスクール	・多様な学校選択幅のある通学区域での導入検討																				
定時制	・生徒の生活スタイル等に応じた学習機会の確保 ・ICTの活用などによる教育活動の充実																				
通信制	・ICTを基盤とした先端技術を効果的に活用した新しい学びの実現に向けて検討																				
Ⅳ 公立高等学校配置計画	<p>1 配置の基本的な考え方</p> <table border="1" data-bbox="488 1283 1406 1720"> <tr> <td>地域の実情に応じた配置</td> <td>・複数校所在市町・圏域 中卒者見込等を踏まえ、関係市町村の参画を得ながら役割分担や配置の在り方を検討 ・所在校以外への通学が困難な市町村 進学希望者数に見合った定員を確保し、地域とつながる活力と魅力のある高校づくりを推進 第1学年全体で40人以上の欠員の場合、学科を再編整備</td> </tr> <tr> <td>1 学年 1 学級の取扱い</td> <td>・第1学年在籍者が2年連続20人未満で再編整備 離島 第1学年在籍者が2年連続10人未満で再編整備 地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉 入学者確保に向けた集中取組期間の設定 期間後生徒数が見込まれない場合再編整備 期間中第1学年在籍者が2年連続10人未満で再編整備 定時制 3年連続10人未満で再編整備</td> </tr> <tr> <td>公私間調整</td> <td>私立高校の配置状況に配慮した定員調整</td> </tr> </table> <p>2 学級定員 高校標準法に基づき40人</p> <p>3 配置計画の策定 ・3年間の配置計画とその後4年間の見通しを示した計画を毎年度策定 ・策定に当たり、通学区域ごとに地域別検討協議会を開催</p>	地域の実情に応じた配置	・複数校所在市町・圏域 中卒者見込等を踏まえ、関係市町村の参画を得ながら役割分担や配置の在り方を検討 ・所在校以外への通学が困難な市町村 進学希望者数に見合った定員を確保し、地域とつながる活力と魅力のある高校づくりを推進 第1学年全体で40人以上の欠員の場合、学科を再編整備	1 学年 1 学級の取扱い	・第1学年在籍者が2年連続20人未満で再編整備 離島 第1学年在籍者が2年連続10人未満で再編整備 地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉 入学者確保に向けた集中取組期間の設定 期間後生徒数が見込まれない場合再編整備 期間中第1学年在籍者が2年連続10人未満で再編整備 定時制 3年連続10人未満で再編整備	公私間調整	私立高校の配置状況に配慮した定員調整														
地域の実情に応じた配置	・複数校所在市町・圏域 中卒者見込等を踏まえ、関係市町村の参画を得ながら役割分担や配置の在り方を検討 ・所在校以外への通学が困難な市町村 進学希望者数に見合った定員を確保し、地域とつながる活力と魅力のある高校づくりを推進 第1学年全体で40人以上の欠員の場合、学科を再編整備																				
1 学年 1 学級の取扱い	・第1学年在籍者が2年連続20人未満で再編整備 離島 第1学年在籍者が2年連続10人未満で再編整備 地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉 入学者確保に向けた集中取組期間の設定 期間後生徒数が見込まれない場合再編整備 期間中第1学年在籍者が2年連続10人未満で再編整備 定時制 3年連続10人未満で再編整備																				
公私間調整	私立高校の配置状況に配慮した定員調整																				
Ⅴ 教育諸条件等の整備	<p>1 道外からの入学者の受入れ ・道外入選の拡大を検討</p> <p>2 通学区域 ・普通科新学科の通学区域の取扱いを検討</p> <p>3 修学に対する支援 ・高等学校生徒遠距離通学費等補助制度について、必要に応じて見直しを検討</p>																				